

子ども一人あたり月額5,000円の習い事助成

一芸が人生を豊かにするまちへ

公約の理念（Why）

一芸は人生を豊かにする。経済的理由で習い事を諦める子どもをゼロにし、地域の学びを未来へつなぐ。

制度構想（How）

施策	登録の位置づけ
日本版DBS（2026施行）	法的義務（強）
部活動地域移行（2031目標）	政策的義務（中）
子ども習い事応援事業（市独自）	支援的登録（柔）

概要（要点）

- 日本版DBS：登録必須。法定の安全確認制度で信頼を担保。
- 部活動地域移行：自治体登録が前提。安全な学校外活動へ。
- 子ども習い事応援事業：登録で公平な支援対象に。

三施策を同時に進める意義
三つの制度を並行して進めることで、登録情報を共有・統合でき、日本版DBSでの安全確認を「安心の共通基盤」として副次的に活用できます。
これにより、
・習い事・地域クラブ・部活動すべてが安全水準を共有し、
・保護者はどの団体でも「同じ安心」を得られ、
・行政は登録・補助・安全確認を一体で運用できる。
登録制度を共通化することで、行政効率と市民の安全・利便が同時に向上します。

登録が必要となる理由

- 日本版DBSは法で定められた「確認対象者登録制」。登録団体に所属しなければ安全確認を受けられません。
- 部活動地域移行も国が求める「自治体登録・認定制」。安全な受け皿づくりの基盤です。
- 子ども習い事応援事業は登録団体を支援対象とし、公平で透明な助成を実現します。

活用と効果（What for）

保護者向けカタログ：目的・費用・実績を比較し、安心して選べる。

地域政策データ：不足分野・交通需要を可視化し、施策に反映。

信頼性の可視化：DBS認定マーク付きで安心を提供。

結論（Message）

登録制度は「管理」ではなく、子どもの安全と信頼を守る責任ある仕組み。

三施策を統合的に進めることで、経済支援・安全・地域の力を一体化し、すべての子どもに“一芸”を保障するまちを目指します。

登録制度は、安全・経済・地域を結び、子どもたちの未来を支える社会基盤です。